

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 8	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Moderate alcohol intake and cancer incidence in women. 女性における中程度飲酒と癌発症	
執筆者	
Allen NE, Beral V, Casabonne D, Kan SW, Reeves GK, Brown A, Green J; Million Women Study Collaborators.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Natl Cancer Inst 2009;101: 296 - 305	
キーワード	
要 旨	
<p>背景： 乳癌以外女性における中等量飲酒や酒類の癌危険への影響はほとんど知られていない。</p> <p>方法： Million Women Study に登録された英国の全 1280296 人の中年女性が癌発症の有無について規定に沿って追跡された。飲酒量と酒類に対する調整後リスク比と 95%信頼区間 (CI) を Cox 回帰モデルによって算出した。全ての統計的検定は両側で行った。</p> <p>結果： コホート参加者の4分の1は非飲酒者であり、飲酒者の98%は一週間に21飲酒以下であり、飲酒者は一日平均10gのアルコールを飲酒 (1飲酒) していた。平均7.2年の追跡期間の間68775の浸潤癌が発症した。飲酒量の増加は口腔および咽頭(10g/日上昇当たり 29%, 95% CI = 14% to 45%, $P_{trend} < .001$)、食道(22%, 95% CI = 8% to 38%, $P_{trend} = .002$)、喉頭(44%, 95% CI = 10% to 88%, $P_{trend} = .008$)、直腸(10%, 95% CI = 2% to 18%, $P_{trend} = .02$)、肝臓(24%, 95% CI = 2% to 51%, $P_{trend} = .03$)、乳(12%, 95% CI = 9% to 14%, $P_{trend} < .001$)、そして全癌 (6%, 95% CI = 4% to 7%, $P_{trend} < .001$)のリスク上昇と関連があった。その傾向は専らワインの飲酒者と他の飲酒者と同様であった。上気道消化管の癌については、アルコール関連リスクは現在の喫煙者に限られ、非喫煙者や禁煙者ではアルコールの影響はほとんどないか全く認めなかった ($P_{heterogeneity} < .001$)。飲酒レベルの上昇は甲状腺癌 ($P_{trend} = .005$)、non-Hodgkinリンパ腫 ($P_{trend} = .001$)、および腎細胞癌 ($P_{trend} = .03$)のリスク減少と関連があった。</p> <p>結論： 女性における低から中等量の飲酒は数種の癌リスクを上昇させる。1 飲酒/日の増加当たり、先進国では 1000 人の女性の 75 歳までの癌発症増加数は乳癌で約 11、口腔および咽頭癌で 1、直腸癌で 1、食道、喉頭および肝臓癌でそれぞれ 0.7、全癌で 15 の発生上昇があると見積もられる。</p>	